

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 美濃和紙ブランド価値向上・販路拡大推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内 3095)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,500 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,500	0	0	0	0	0	0	0	6,500
決定額	6,500	2,509	0	0	0	0	0	0	3,991

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

2014年のユネスコ無形文化遺産登録を一つの契機として、県市及び関係団体はこれまで2期にわたる「美濃和紙活性化のためのアクションプラン」に基づく取組みを推進してきた。

この間、後継者の着実な育成や、美濃手すき和紙の東京2020オリンピック・パラリンピック大会表彰状への採用など、「伝承」・「発展」のそれぞれにおいて一定の成果を上げている。

一方で、新型コロナウイルス感染症等の影響もあって、多くの美濃和紙関係事業者の業況は低迷しており、関係者からはこれまでの取組みが必ずしも売り上げ向上につながっていないという声も聞かれる。

そこで、美濃和紙を製造する者、加工する者といった業態毎のターゲット戦略や、デジタル時代に合わせた販売戦略の推進など、需要拡大に向けた取組みを強化していく必要がある。

(2) 事業内容

- ・美濃和紙ブランドの価値向上に向けた研究会を継続的に開催する。
- ・研究会での議論に基づき、美濃和紙の需要拡大に向けた販路開拓や国内外に向けたプロモーションを実施する。

①研究会開催

美濃和紙ブランドの価値向上、需要拡大に向けた議論を定期的に行う。

②美濃和紙ブランドプロモーション事業

地元での業態別商談会、WEBを活用した販売フェア、美濃和紙の更なるプロモーションを行う。

《国内》

○地元での商談会（バイヤー招聘）・PR

- ・国内の主要なバイヤー（和紙取り扱い店舗等）を美濃和紙の産地である美濃市に招聘し、業態別の商談会を実施。
- ・実施にあたっては地元イベントの活用など効果的な実施方法を検討

○WEBを活用した販売フェア

- ・WEB上において、新たな美濃和紙ブランド製品（本美濃紙、手すき和紙、機械すき和紙）を中心とした販売フェアを実施。

《海外》

○PR展示

- ・知事トップセールス等に合わせ、他の県産品との一体的なPRを実施。

（3）県負担・補助率の考え方

- ・地方創生推進交付金を活用
- ・国 1/2、県 1/2

（4）類似事業の有無

- ・なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	240	委員謝金
旅費	966	費用弁償、業務旅費
需用費	143	消耗品
役務費	112	通信運搬費、サンプル等発送費
会議費	20	水代
委託料	5,019	商談会開催経費等
合計	6,500	

決定額の考え方

財源については、地方創生推進交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④ 「ぎふブランド」づくり

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
研究会での議論、検討内容を踏まえ、より効果的に美濃和紙の魅力をもPRし、更なる需要拡大に係る取組みの充実を図っていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3 末)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R6 末)	達成率
						%
Mブランド商品の販売額の把握及び前年度比1割増（仮）	—	—	—	— ※販売額の把握	R5 年度 比1割増	%

○指標を設定することができない場合の理由

- ・事業目標は「美濃和紙活性化のためのアクションプラン」に基づき設定する必要があるが、令和3年度がプランの終期となっており、令和4年度以降の目標及び指標は未定である。
- ・新たな方向性については、今後開催する美濃和紙活性化会議の議論を受けて決定する（R4.1開催予定）。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃和紙ブランド価値向上研究会の開催（①R2.10、②R2.12） ・新たな美濃和紙ブランド製品の試作品の開発 <p>※国内外展示会等への出展は中止</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家のコーディネートによる研究会において、美濃和紙のブランド力向上のために関係者が目指すべき方向性を議論した。 ・また、関係事業者が商品開発等に取り組み、美濃和紙の更なる需要拡大を図った。
令和3年	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>

令和 4	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
---------	------------------------------------------

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>本美濃紙を含む「和紙：日本の手漉和紙技術」のユネスコ無形文化遺産への登録、美濃手すき和紙の東京オリンピック・パラリンピック表彰状への採用により、美濃和紙の産地活性化に向けた千載一遇のチャンスが訪れている。一方で、美濃和紙関係事業者の大半が中小零細であり、財政基盤がぜい弱であることから、美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大への支援が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>外部専門家のコーディネートによる研究会での議論を通じて、美濃和紙の需要拡大に向けた、事業者の意識改革が図られるとともに、ブランド価値向上のための方向性を明確化し、産地全体で取り組んでいくことで、美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大が図られる。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 美濃和紙を取り巻く5つの課題（「需要の拡大」「ブランド力向上」「後継者の育成」「原材料の確保」「地域の魅力向上」）のうち、最重要課題である「需要の拡大」に有効な戦略の着実な実行が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 第2期アクションプランが令和3年度で終期を迎えることから、次年度以降の方向性については、美濃和紙活性会議での議論を踏まえて決定する。 具体的な事業実施にあたっては、研究会での議論や検討内容を踏まえ、産地の活性化に向けて更なる需要拡大を図っていく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	